

吉村昭彦教授は 1986 年京都大学理学博士号を取得後、大分医科大学、鹿児島大学医学部で助手、助教授を経て 1995 年に久留米大学分子生命科学研究所教授、2001 年より九州大学生体防御医学研究所教授に就任、そして 2008 年に慶應に異動されて現在の微生物学免疫学教室を主宰されています。この間「疾患を分子の言葉で理解する」を標榜し、一貫して疾患にかかわる免疫応答の分子レベルでの解明を目指されてきました。特にサイトカインの主要シグナル経路である JAK/STAT 経路と Ras/ERK 経路を負に制御する因子 CIS/SOCS ファミリーと SPRED ファミリーを発見し、サイトカインシグナルに負の調節機構が存在することを世界で初めて示すとともに、これらの分子群が炎症やアレルギー、自己免疫疾患、腫瘍などにおいて重要な役割を果たしていることを明らかにしました。さらに国際共同研究によってヒト SPRED1 が神経線維芽腫症 I 型に類似する Legius 症候群の原因遺伝子であることを突きとめました。一方海外のグループにより SOCS1 が早期 SLE の原因遺伝子であることが報告されました。慶應に移られてからはこれらの免疫制御分子の発現を調節し、「免疫寛容」のかなめとなる転写因子 NR4a を発見し、現在腫瘍免疫や老化の分野でも精力的に研究を進めています。また脳梗塞において制御性 T 細胞が神経保護に働くことを発見するなど、これまで気づかれていなかった疾患と免疫の関係を明らかにし、免疫学の裾野を広げるような斬新な研究を推進されています。このように、複雑な免疫応答や病態を分子レベルで解き明かし、疾患の本質的な理解につなげたことが高く評価されたのだと思います。また吉村教授は AMED の革新的先端研究開発支援事業の総括を勤めるなど、後進の指導にも熱心に取り組んでいることも受賞理由のひとつと考えられます。

紫綬褒章受章を励みにますますのご活躍を期待いたします。